令和元年度　ふくしま高校生
社会貢献活動コンテスト本選
報　告　書

2019 年 12 月 15 日（日）、福島大学にて「令和元年度　ふくしま高校生　社会貢献活動コンテスト」本選が開かれました（主催：福島県教育委員会・一般社団法人ふくしま学びのネットワーク（運営事務局）、共催：福島大学アドミッションセンター）。予選の書類審査を通過した県内各地の 12 グループが一堂に会し、ボランティア・復興・国際交流・まちおこし・製品開発など、自分たちが行っている社会貢献活動について発表しました。

福島県内の高校生の社会貢献活動はとても活発で、主体的な課題発見・解決型の学習や、サービスラーニング（活動を通じた学び）としても注目されています。報告書では、本選出場グループの活動をご紹介します。

グループ名	会津学鳳高校「会津学鳳　絵本よみきかせ隊」
活動名	「絵本よみきかせ隊」がゆく

【活動紹介】

図書館に 300 冊ある絵本の活用と、親子連れが楽しめる機会の創出を目標に始まりました。絵本の読み聞かせを選んだ理由は、子どもたちの感情や想像力、言語力などが豊かになると考えたからです。「高校生がもっと地域に出るといい、街が明るくなる」という書店員さんの言葉を胸に市民講座や会津短大のゼミに参加し、スキルを身につけました。

活動は地域の児童書コーナーで行い、読み聞かせだけでなく参加者が楽しめるような大型絵本や折り紙も取り入れました。外国人の子どもも参加してくれたので、全員が楽しめる活動を模索し、英語で絵本を朗読しようと考えました。そこで留学生に活動に加わってもらい、日英の 2 か国語で朗読するなど工夫を重ねました。コンテスト本選では絵本『はらぺこあおむし』の朗読から始まり、活動内容や活動を継承するための課題を発表しました。

グループ名	岩瀬農業高校 ヒューマンサービス科
活動名	農業を活かしたヒューマンサービスに関する研究～岩農版 こども食堂への挑戦～

【活動紹介】

岩農版「こども食堂」への挑戦は、園芸が人にもたらす効果を研究し、地域の一員としてこどもの貧困に取り組みたいという思いから始まりました。生徒たちは「こども食堂の継続した活動と安定した運営の確立」「安心安全な食材の確保」「コミュニティづくり」の 3 点について発表しました。

こどもたちには「食の貧困」の問題があり、肉や野菜が嫌いな子がいるため、彼らが楽しみながらバランスよく栄養を摂取するためにバイキング方式を採用したり、野菜ソムリエとコラボ活動を行ったりしたことを発表してくれました。またこども食堂には「こどもの貧困」というイメージがあり、より多くの人が来られるようワークショップを開催するなど、こどもだけでなく大人も足を運べるような取り組みをしたことを報告。「地域づくりがこどもの貧困を減少させることにつながる」と提案しました。

グループ名	小高産業技術高校 流通ビジネス科 地域貢献グループ
活動名	おだかに「元気」と「にぎわい」を！ 私たちができること

【活動紹介】

活動は地域復興とコミュニティ再生、そして復興のアピールを目的に始まりました。「地域貢献グループ」の生徒たちは広報・地域連携・商品開発の 3 チームに分かれ活動を行いました。

コンテスト本選では、まず広報 PR チームが地域特産品の PR をするためのリーフレット作成について発表しました。ステークホルダーと協議を重ね、品目を厳選し人物イラストを用いることで、リーフレットは大人気となりました。地域連携チームは地元の日用品を販売する「小高ストア」を舞台に、帰還促進を目的とした商品選定や発注、棚割りなどで活躍。POS データを分析し、検討会議やイベント企画も行っています。商品開発チームは、地域に愛され多くの人に食べてもらうべく企業と協力し地元の食材を用いた「ほっき飯ちらし弁当」「ほっき飯いなり」の開発やメディアを通じた PR について発表しました。

グループ名	小野高校 福祉教養系列
活動名	この笑顔で、その笑顔で、幸せが広がる!!

【活動紹介】

活動は、介護職の採用率よりも離職率が高いといった課題へ取り組むことを目標に始まりました。生徒たちは実際に介護の現場に足を運び、高齢者や介護職員と交流を重ねています。

コンテスト本選では「あなたとわたし」わくわく体験交流ボランティアや赤い羽根共同募金などでの活動や、デイサービスでのレクリエーションボランティアの様子などを発表してくれました。活動において生徒たちは主体的にゲームを考案し、実際に高齢者と一緒に遊ぶことでゲームの改善点を見つけ、その都度改良に励んだこと、そして参加した人たちからお褒めの言葉があったことなどを報告してくれました。生徒たちはボランティア活動を通じて、笑顔は連鎖することを発見し、視野を広げることの大切さに気付いたそうです。「介護現場を明るくし、笑顔を絶やさず交流の輪を広げていきたい」と力強く発表してくれました。

グループ名	光南高校 矢吹の町を支え隊
活動名	矢吹町ボランティア活動の活性化への取り組み

【活動紹介】

「矢吹の町を支え隊」の活動は、少子高齢化が進行する中、ボランティア人口を増やし町の活性化に寄与したいという思いから始まりました。ボランティアに資格はなく、必要なことは相手への親身な思いやりだとアピールすることで、初心者が活動に参加しやすくなると、生徒たちは考えています。

生徒たちは健康の秘訣でもある「笑い」を大切にしながら、グループホーム訪問ボランティアや地元中学生に向けた出前授業など、多彩な活動を行っています。「町民介護講座」では「介護あるある」の共感があったことも発表してくれました。

さらに様々な大会への参加を通じて命の尊さを学び、「私たちの当たり前は途上国にとっては奇跡であると気づいた」「課題を認識することがボランティア人口増加に必要かもしれない」と、活動を通じて大きく成長したことを報告してくれました。

グループ名	白河実業高校 機械科 課題研究班
活動名	想いよとどけ！地域の人へ！～ make a trash box ～

【活動紹介】

機械科の知識・技術を活かして地域社会に貢献したいという思いから始まった活動です。生徒たちは高校で学んだ「ものづくり」を通じて地域の人への感謝の気持ちを表すべく、ゴミ回収ボックスの製作に励みました。地域の課題や現状を分析し、南湖公園のごみ置き場が汚いことが分かったからです。

地域住民に聞き取りをし、大きすぎず、外装は目立たず、かつ不法投棄を予防できるものが望ましいと分かりました。自分たちで設計・製作・塗装を行い、設置しました。コンテスト本選ではメンバーで意見がまとまらず紆余曲折したことや、先輩からの伝統を継承するプレッシャーを語りました。また新たな技術などを調べ実践することで「ものづくり」の大変さを体験するとともに、完成時の達成感や地域とのつながりを実感したこと、そして人として成長できたことなどを発表してくれました。

グループ名	新地高校 おもひの木プロジェクト
活動名	おもひの木プロジェクト

【活動紹介】

「おもひの木プロジェクト」の活動は、東日本大震災で 9 名の先輩が犠牲になったことを記憶するために行われています。生徒たちは毎月、月命日である 11 日に追悼行事と、地元・新地町での清掃活動を継続しています。またプロジェクトを広めるための記念品作成や、語り部活動も行っています。

コンテスト本選では、海外での語り部活動もふくめた幅広い活躍の様子を発表してくれました。また震災を考えるワークショップへの参加や、同じく震災を経験した他校生徒会との交流についても報告がありました。他県にも出向き、南三陸町で風化について議論したり、陸前高田市で語り部と交流したりと、積極的な活動を展開しています。最後に実際に語り部活動をする生徒が、活動で自分の経験を話すことで精神的に楽になったことや、全国高校生歴史フォーラムでの経験を報告してくれました。

グループ名	相馬農業高校 郷土芸能部
活動名	郷土伝統芸能継承プロジェクト

【活動紹介】

郷土芸能部は地域の伝統芸能を継承し、様々な舞台で発表しています。生徒たちは、地域が人口減少・農家の減少・農村文化の危機など多様な課題を抱えるなか、自分たち高校生が出来ることは何かという問題意識を持ち活動に励んでいます。

コンテスト本選では御神楽、田植踊、相馬流山などかつて地域で興隆を極めた伝統芸能の紹介がありました。そのうえで現在では 91 年目を迎える公開文化祭や体育芸能文化祭で、全校生徒が継承している様子を紹介してくれました。また高校生による伝統芸能の継承を力強く支えてくださる地域の芸能師匠の存在に触れ、こうした地域の方々がおられるからこそ芸能が継承され、また大人との接し方を学ぶことが出来ると報告しました。生徒たちは伝統芸能への思いを語り、次の世代にも継承していきたい、そして県内外に踊を伝えたいと熱を込めて発表しました。

グループ名	平支援学校ボランティア部・いわき総合高校生活福祉系列
活動名	当事者が考える＆当事者として考えるインクルーシブデザイン

【活動紹介】

まちのバリアフリーはどうなっているのか。災害が起こった時、障がいのある人はどこへ避難するか。「私たちのことを、私たち抜きで決めないで」の合言葉を胸に活動を行っています。

生徒たちは当事者が考える＆当事者として考える Inclusive Design について研究しました。コンテスト本選ではまず「生活福祉系列」が、インタビュー調査とその結果を発表しました。聴覚障がいのある人は災害発生時に電光掲示板で情報を流してほしいこと、視覚障がいのある人が困っている際に助ける人が少ないことなどを発表しました。「ボランティア部」は台風 19 号発生時の経験を踏まえ、バリアフリーで広いトイレもある福祉避難所の重要性について発表しました。まとめでは重度の障がいがある人や高齢者のことを第一に考える Inclusive Design の必要性を強調し、市役所などに伝えることの重要性も発表しました。

グループ名	福島商業高校「福商チーム TRY2019」
活動名	福商エール販売活動

【活動紹介】

活動では福島の食材をいかした商品開発から販売までを行い、復興のための PR に励んでいます。生徒たちは消費者の購買意欲を促進させるため「インスタ映え」を意識した商品開発を行っています。桃とリンゴの果汁を利用した琥珀糖の和菓子「ふくしまの結晶」や、どら焼き「古関裕而のリンゴは君に輝く」など福島ゆかりの商品のほか、健康志向を意識し福島の豆を使った「SOY! SOY! 福商豆カレー」も開発・販売しました。

コンテスト本選では福島市内のほか上野公園や佐野パーキングエリアでの販売会、全国産業フェア出展や SNS などでの PR 活動の様子を発表しました。購入してくださった方から、あたたかい励ましの言葉を頂くことも多かったそうです。また商品や販売方法などについて反省や検証を重ねており、後輩へ活動を継承させていきたいと力を込めて発表していました。

グループ名	ふたば未来学園高校 健康と福祉ゼミ 美容グループ
活動名	美容でいきいきプロジェクト

【活動紹介】

介護人材が不足するなか、将来の目標である美容師のスキルを高齢者の健康維持に活かすべく「口紅一本で『生きがい』と『健康』を」という思いで活動しています。生徒たちは地域の課題を分析し、高齢者の外出の機会を増やすため「美容でいきいきプロジェクト」を立ち上げました。メイクをすることでメンタル面・行動面でのサポートができ、健康寿命を延ばすことが可能になると考えたからです。生徒たちは高齢者施設をくりかえし訪問し、メイクを通じて高齢者とのコミュニケーションを重ねました。

コンテスト本選では、高齢者からの感謝の言葉や「若返った」「外を歩きたくなる」「化粧がうまくいくと元気になる」などの反応を頂いたことを紹介しました。また、中には「明るい色のメイクは恥ずかしい」という人もおられるため、活動にあたり試行錯誤を重ねたことも発表してくれました。

グループ名	ふたば未来学園高校 メディア・コミュニケーション探究ゼミ
活動名	「双葉郡のイメチェン」

【活動紹介】

「双葉郡のイメチェン」の活動は、双葉郡へのポジティブなイメージを根付かせたいという思いから始まりました。生徒たちは正確な情報を伝えるため、独自の商品を作り PR 活動をすることにしました。SNS だけでは一方的な情報発信となってしまい、更なる風評被害を招きかねないと考えたからです。

生徒たちは特産品である木戸川の鮭に注目しました。自分たちだけでは材料調達や商品開発ができないため、外部の協力も取りつけ「鮭フレーク」が完成。目的は「双葉郡のイメチェン」なので、リーフレットを作成し広範な地域で自分たちの思いを伝える活動をしました。コンテスト本選では、商品開発や材料の調達のためのプレゼンや、県内外における試食・販売などの PR 活動の様子を紹介し、たくさんの人に「実際に双葉郡を訪れてほしい」という思いを伝えたことを発表しました。

コンテスト本選では各グループのプレゼンテーションにくわえ、審査員の先生方からの質疑応答が行われました。どのグループも「自分たち高校生の力で地域を、社会を良くしたい！」という思いに満ちた素晴らしい活動ばかりでした。審査員の先生方は「どのグループも本当にすごい、賞を決めるのは非常に難しい」と口を揃えておられましたが、厳正な審査の結果、下記の通り各賞が決定しました。

令和元年度 ふくしま高校生 社会貢献活動コンテスト本選結果

★福島県教育委員会より	入選	★福島大学ACより
最優秀賞	・岩瀬農業高校 ヒューマンサービス科	福島大学アドミッションセンター長賞
・ふたば未来学園高校 健康と福祉ゼミ 美容グループ	・小高産業技術高校 流通ビジネス科 地域貢献グループ	・岩瀬農業高校 ヒューマンサービス科
	・小野高校 福祉教養系列	・小高産業技術高校 流通ビジネス科 地域貢献グループ
優秀賞	・光南高校 矢吹の町を支え隊	・福島商業高校 福商チーム TRY2019
・会津学鳳高校 会津学鳳 絵本よみきかせ隊	・新地高校 おもひの木プロジェクト	・ふたば未来学園高校 メディア・コミュニケーション探究ゼミ
・白河実業高校機械科 課題研究班	・相馬農業高校 郷土芸能部	
・平支援学校ボランティア部・ いわき総合高校生活福祉系列	・福島商業高校 福商チーム TRY2019	社会貢献賞
	・ふたば未来学園高校 メディア・コミュニケーション探究ゼミ	・本選出場の全グループ

受賞者には、福島県教育委員会の鈴木淳一教育長と、審査委員長の塩谷弘康先生（福島大学副学長・アドミッションセンター長）から賞状が贈られました。みなさん、本当におめでとうございました！

令和元年度 ふくしま高校生 社会貢献活動コンテスト本選 報告書（2020 年 2 月発行）
主催 福島県教育委員会、一般社団法人ふくしま学びのネットワーク（運営事務局）
共催 福島大学アドミッションセンター
※本報告書 PDF 版は「ふくしま学びのネットワーク」の HP（https://www.fks-manabi.net/）からダウンロードできます。